TADOKU JUNIOR　自然のふしぎ神話　★★★☆☆ ふつう　348語

The Donkey and the Salt

しおを運ぶロバ

Flora J. Cooke（1895年の本）　原文そのまま　朗読：Linette Geisel

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　しおをせおったロバは、小川でころぶと荷物が軽くなることに気がつきます。それからわざと水にねそべるようになって……。



One time a merchant went to the seashore for a load of salt.

There were many hills and streams to cross on the journey.

As the path was narrow and rocky, the man made his donkey carry the salt in large bags upon his back. It was a warm day, and the donkey did not like his heavy load.

He hung down his head and went as slowly as he could.

After a while they came to a stream which had only a foot bridge over it.

The donkey went through the water, splash! splash! splash! In the middle of the stream was a large stone which he did not see.

He stumbled and fell, and the water ran over the bags of salt.

Soon the donkey was glad that he had fallen, for he found his load much lighter.

They came to another stream, but the donkey did not stumble this time. He lay down in the middle of the brook.

He was a wise donkey.

This time he lost so much salt that his master was angry, for he was obliged to go back to the seashore for another load.

As they were walking along, the merchant laughed to himself.

He thought he knew a way to cure the donkey of this trick.

When they came to the seashore, he filled the bags with sponges, and started for home.

The donkey thought, "What a light load I have," and trotted gaily along over the rough road.

Again they came to the brook. "Ah!" thought the donkey, "I will make my load still lighter."

He lay down in the middle of the brook.

This time he found his load so heavy that he could scarcely rise.

His master kindly helped him, but the donkey was not happy.

The water ran down his sides and made him more miserable.

"Oh," thought he, "I will never lie down in the water again."

Once more his master led him back to the seashore.

He filled the bags with salt.

The donkey was wiser now and carried the salt safely home.

和訳 しおを運ぶロバ（The Donkey and the Salt）

あるとき、ひとりの商人が、しおを仕入れに海べへ行きました。

とちゅうには、こえなければならないおかや小川がたくさんありました。

道がせまくて石ころだらけだったので、商人はロバに、大きなふくろに入れたしおをせおわせました。あたたかい日で、ロバは重い荷物がいやでたまりませんでした。

ロバは頭をたれて、できるだけゆっくり歩きました。

しばらくすると、人が歩いてわたるための橋しかかかっていない小川に来ました。

ロバは水の中を、ジャブ！ジャブ！ジャブ！と歩いていきました。小川のまん中に大きな石がありましたが、ロバは気がつきませんでした。

ロバはつまずいてころび、しおのふくろの上を水が流れていきました。

すぐにロバは、ころんでよかったと思いました。荷物がずっと軽くなっていたのです。

またべつの小川に来ましたが、こんどはロバはつまずきませんでした。小川のまん中に、ねそべったのです。

ちえのあるロバでした。

こんどはあまりにたくさんのしおをなくしたので、主人はおこりました。もう一度海べへ、しおを仕入れにもどらなければならなかったからです。

歩いているうちに、商人は心の中でにやりとわらいました。

ロバのこのずるいくせをなおすやり方を思いついたのです。

海べに着くと、商人はふくろにカイメン（スポンジ）をつめて、家へ向かいました。

ロバは「なんて軽い荷物だろう」と思って、でこぼこ道を楽しそうにトコトコ歩いていきました。

また小川に来ました。「よし！」とロバは思いました。「荷物をもっと軽くしてやろう。」

ロバは小川のまん中にねそべりました。

ところがこんどは、荷物がとても重くなって、ほとんど起き上がれませんでした。

主人はやさしく手をかしてくれましたが、ロバはちっともうれしくありませんでした。

水がわきばらを流れ落ちて、ロバはいっそうみじめな気持ちになりました。

「ああ」とロバは思いました。「もう二度と水の中にねそべったりしないぞ。」

主人はもう一度、ロバを海べへつれていきました。

そして、ふくろにしおをつめました。

ロバはもうかしこくなっていたので、しおをぶじに家まで運びました。

たんご と クイズ　しおを運ぶロバ

salt	しお	**donkey**	ロバ	**bags**	ふくろ
bridge	橋	**stone**	石	**sponges**	カイメン（スポンジ）

Q1 ロバが小川でころんだら、荷物はどうなった？

① 重くなった　② 軽くなった　③ かわらなかった

Q2 商人は、ロバのくせをなおすためにふくろに何をつめた？

① カイメン（スポンジ）　② 石　③ さとう

Q3 さいごにロバはどうなった？

① また水にねそべった　② にげ出した　③ かしこくなってしおをぶじに運んだ

こたえ

Q1 ②　しおのふくろの上を水が流れたので、荷物がずっと軽くなっていました。しおが水にとけたのです。

Q2 ①　商人はカイメンをつめました。カイメンは水をすって重くなるので、ロバは起き上がれないほどでした。

Q3 ③　もう二度と水にねそべらないとこりたロバは、かしこくなって、しおをぶじに家まで運びました。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #30800（Flora J. Cooke、1895年）。パブリックドメイン。
挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。
朗読（Web版）：Linette Geisel（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。